

議題 1. 平成 24 年度事業報告

I. 総務会 総務会

1. 委員

担当理事 坪内 政義（専務理事・愛医）、河合 富士美（聖ルカ）、
北川 正路（慈恵）、児玉 閲（東邦）、酒井 由紀子（慶應）

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第 1 回（平成 24 年 4 月 6 日）

第 2 回（平成 24 年 5 月 21 日）

第 3 回（平成 24 年 7 月 6 日）

第 4 回（平成 24 年 10 月 5 日）

第 5 回（平成 24 年 12 月 3 日）

第 6 回（平成 25 年 2 月 15 日）

次 回（平成 25 年 月 日）※3 月中あるいは 4 月上旬開催予定

2) 第 83 回総会を平成 24 年 5 月 24 日に日本科学未来館にて開催した。

3) 同分科会を平成 24 年 5 月 25 日に日本科学未来館にて開催した。

4) 第 84 回（平成 25 年度）総会及び分科会を平成 25 年 5 月 25 日（木）－26 日（金）に日本科学未来館にて開催することとし、実行委員会（委員長：北川理事）を立ち上げた。

5) 第 85 回（平成 26 年度）は東京以外の地で開催することとし、会場候補を数カ所（数地区）検討した。開催時期は 5 月末とした。

6) 平成 24 年度地区会事務局連絡会議を平成 24 年 12 月 4 日に開催した。

7) 地区研修助成金の支給について、「一会員あたり半日 500 円、会場費 10,000 円以内」を改め、平成 25 年度から「研修企画に応じて 50,000 円まで支給」に変更することとした。

8) 平成 22～24 年度中期重点事業（目標）を総括、第 84 回総会にて報告することとした。

9) 平成 25～27 年度中期重点事業（目標）を設定、第 84 回総会に報告することとした。

10) 平成 26 年度以降の総会運営について、組織・制度委員会作成による細則改正案を理事会にて承認、第 84 回総会に諮ることとした。

11) 会員番号と略称について、企画・調査委員会作成による新設定案及び付与ルール案を理事会にて承認、第 84 回総会に諮ることとした。

12) 国際交流委員会を立ち上げ、Medical Library Association (MLA)、韓国 医学図書館協議会 (KMLA) との連携強化、その他の活動を開始した。

13) 平成 23 年度評議員会と地区会事務局連絡会議で要望のあった、各委員会業務の紹介資料を作成し、平成 24 年度連絡会議に提出した。今後、記載内容を精査して、委員会活動の広報等に活用する。

14) 委員募集の方法について検討し、一案として、国際交流委員会で公募を実施した。

15) 日本医書出版協会 (JMPA) との協議を、①日本語資料の電子出版、②著作権、の二つのテーマで継続した。著作権については、日本薬学図書館協議会 (JPLA) の企画により、平成 24 年度図書館総合展 JMLA/JPLA フォーラムでも取り上げた。

※ 4. その他の報告事項を参照のこと。

16) 中央事務局体制について継続検討した。

17) その他、理事会及び各委員会活動に関する検討、意見調整を行った。

※以上、担当委員会のあるものは、当該委員会の事業報告を参照のこと。

3. その他の実績

1) 会員の動向

入会

正会員 A

名古屋大学附属図書館医学部分館

正会員 B

日本麻酔科学会麻酔博物館

国立循環器病研究センター図書館

東京ベイ・浦安市川医療センター国際図書館

正会員個人 10名

協力会員 なし

維持会員 1機関(団体)

維持会員 なし(個人)

退会

正会員 A

愛媛大学図書館医学部分館

立命館大学図書館メディアセンター

正会員 B

京都市立病院図書室

正会員個人 10名

協力会員 なし

維持会員 なし(団体)

維持会員 なし(個人)

平成25年3月31日現在の会員数

正会員 A 100機関

正会員 B 38機関

正会員個人 102名

協力会員 2機関

維持会員 21機関(団体)

維持会員 2名(個人)

2) 寄付 (助成金・奨学基金)

株式会社紀伊國屋書店

丸善株式会社

津田愛子殿

3) その他

資料の共同購入 図書館年鑑 37冊 647,500円

インセットテープ 16、17回合計 116,000本 109,620円

NLM 複写依頼 4,583件 5,847,090円

KMLA への文献複写提供実績 19件

4. その他の報告事項

「日本医書出版協会(JMPA)との会合」報告

1) 参加者 坪内 政義(専務理事、愛医)、児玉 闕(東邦)、宇佐見 由美(事務局)、 谷澤 滋生(アドバイザー、東邦大学習志野メディアセンター)

2) 会合開催記録

第1回 平成24年4月5日

第2回 平成24年5月11日

第3回 平成24年7月26日

第4回 平成24年9月12日

第5回 平成24年11月12日

第6回 平成25年1月21日

第7回 平成25年3月25日

3) 電子出版ミーティング

- ・日本語電子書籍の出版を年間を通して、提供モデル、教科書の扱い方、価格設定について意見交換をした。
- ・提供モデルでは、FTEに基づくビッグディール、同時アクセス数制限型、PPVなどを協議したが、双方にとってそれぞれに一長一短があり、合意できるモデルを一つに決めることはできなかった。提供する資料や対象者によって望ましいモデルが異なることから、出版社には多彩なモデルの提供を要望した。
- ・電子資料は、JMPA加盟の出版社が別々に提供するのではなく、JMPAとして共通のプラットフォームを用意することが確認された。
- ・教科書は一般書籍と同じ扱いはできないというのがJMPA側の主張であった。教科書はほとんどの学生が買うものという出版社の認識と、購入率はそれほど高くないというJMLA側の認識とに開きがあったが、いずれにしても、教科書購入は図書館が担当しているものではないので、学部や大学全体で検討する必要がある、ここでは踏み込んだ協議は行わなかった。
- ・価格設定について、JMPA側は、図書館に電子版を提供する見返りに、図書館予算だけでなく、研究費や私費で購入する分も含めた負担を要望した。電子版の登場によって印刷版の売れ行きが下がるという現象はあまり報告されていないことから、JMLA側としてそれは承諾できないことを回答した。
- ・海外出版社が図書館向けに機関価格というものを設けており、JMLA側としてその導入は否定しなかったが、価格設定基準については意見を交わした。JMPA側は、売れ筋とそうでない資料とで価格に重み付けを考えているようだが、このミーティングでその程度を決めることはなかった。あまりに高い値付けをされれば、図書館側も買わないので、実行性のある価格を望んだ。
- ・本ミーティングは、電子資料の出版を促進するための図書館と出版社との意見交換の場である。平成23年12月以降、10回開催したが、意見交換は3月のミーティングをもってひとまず終了とした。今後は、必要に応じて、意見交換する機会を設けることとなった。

4) 著作権ミーティング

- ・JMPAとJMLAとで電子出版について意見交換を開始した際、「電子資料の提供において著作権法遵守は重要」との認識から、著作権についても、意見交換の場を設けることになった。
- ・JMPAとJMLAとでは、著作権法の解釈が必ずしも一致ではないが、意見交換の場はその解釈の協議ではなく、一般市民に著作権について理解を深めてもらうための啓蒙活動について協議することとし、具体的にはポスターとパンフレットを作成することになった。図書館と出版社とが共同で著作権について啓蒙活動をすることは国内では初めてのこととなる。タブレット端末などの普及で、あらゆる資料を電子化して携帯する動きが広まっているが、すべての行為が許されるものでもないので、図書館利用者や一般市民に著作権について理解してもらうとともに、著作権について図書館が相談窓口になることをアピールする。
- ・ポスターはA2版を細くしたサイズで、図書館内などで掲示をする。パンフレットはA4版を三つ折りにし、著作権に関する簡単な〇×クイズを掲載する。また出版社と図書館からそれぞれメッセージを掲載し、著作権の遵守とともに、著作権に関する相談に図書館が応えることを訴えた。ポスターとパンフレットは、平成25年度JMLA総会までに発行できる

よう、準備を進めた。

- ・このほか、教育・研究委員会の協力を得て、図書館総合展の JMLA/JPLA フォーラム枠で、著作権に関するセミナーを開催した。定員約 100 名の会場で、100 人以上の参加者があり、盛況であった。

Ⅱ. 企画・調査

企画・調査委員会

1. 委員

担当理事 青木 裕子 (天理)
委員長 岸 友子 (川崎)
委員 石川 明子 (神常)、伊藤 淑子 (個人)、白石 真弓 (阪齒)、
土佐 智義 (個人)、吉富 啓子 (近畿)

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第 1 回 平成 24 年 7 月 12 日
第 2 回 平成 24 年 11 月 28 日
第 3 回 平成 25 年 3 月 21 日

2) 第 83 次加盟館統計の発行

前年度に実施した「主要 3 事業アンケート」の結果を反映し、調査項目の追加・削除を行った。発行までのスケジュールを計画どおり行い、9 月 28 日に完成版を協会ホームページに掲載した。また希望者に簡易製本版を販売した。(24 冊)

3) 第 63 回重複雑誌交換事業の実施

前年度に実施した「主要 3 事業アンケート」の結果を反映し、従来のスケジュールを可能な範囲で調整し、データ提出 7 月 2 日～8 月 20 日、交換期間 11 月 8 日～12 月 10 日、報告書提出 12 月 25 日と計画どおり実施した。提出冊数は 45,408 冊、申込冊数は 5,483 冊、受領冊数は 4,613 冊であった。

4) 「要覧 2012」の発行

前年度に実施した「主要 3 事業アンケート」の結果を反映し、理事会の議を経て、事業実績の「行事一覧」を「活動報告」の最初に掲載した。また「活動報告」は、理事会の方針で総会資料をそのまま掲載することとなったが、要覧の作業方針・様式に合わせて変更した。新定款による規程・細則類の改正に時間を要し、例年より 1 か月以上遅れての完成となった。

5) 会員番号・略称・記号について

前年度実施したアンケート結果等を踏まえて審議し、会員略称を廃止した付与方法案と、それに準じた新設定案を作成した。総務会、理事会、地区会事務局連絡会議での審議を経て修正を行い、成案とした。

3. 今後の課題

- 1) 「主要 3 事業アンケート」の結果について、引き続き検討する。
- 2) 次年度委員の欠員を補充する。

Ⅲ. 機関誌「医学図書館」編集

「医学図書館」編集委員会

1. 委員

- 担当理事 磯野 威（個人）
委員長 大谷 裕（東邦）
委員 小嶋 智美（個人）、櫻井 待子（京大）、笹谷 裕子（杏林）、
高畑 亜紗美（東医）、野田 久愛（東女）、百留 悦子（埼玉）、
吉新 裕昭（獨協）、若田部 純子（医中誌）
編集協力委員 森 彩（個人：北海道）、寺崎 宏美（山形：東北）、
金子 賢一（埼玉：関東）、松田 知子（福井：北信越）、
榎本 涼子（名市：東海）、山下 ユミ（京府：近畿）、
宮本 晴江（中国・四国）、福島 真紀（福岡：九州・沖縄）
査読委員 富田 麻子（日医）、城山 泰彦（順天）、伊藤 麻絵（昭和）
内生蔵 洋子（聖マ）、菅 修一（個人）、押田 いく子（東邦）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

- 第1回 平成24年7月23日
第2回 平成24年10月15日
第3回 平成25年2月8日

2) 「医学図書館」の刊行

- (1) 59巻1号（平成24年3月20日発行）
(2) 59巻2号（平成24年6月20日発行）
(3) 59巻3号（平成24年9月20日発行）
(4) 59巻4号（平成24年12月20日発行）

3) J-STAGE への最新号掲載のための検討

3. 今後の課題

- 1) 編集システムの改修
2) J-STAGE への最新号の掲載
3) Journal@chive 事業の際作成された、全ての記事の活用促進
4) 本協会の他事業との協力および関連性の強化

Ⅳ. 出版

出版委員会

1. 委員

- 担当理事 磯野 威（個人）
委員長 宇野 彰男（北医）
委員 白土 裕子（医中誌）、山下 和美（防医）、宮明 秀幸（国医情）、
村田 泰子（日医）、

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

- 第1回 平成25年9月11日

2) 「わかりやすい医中誌 Web 検索ガイド-検索事例付-」の刊行（継続）

12月末原稿完成予定が3月にずれ込んだため、平成25年度の刊行とした。

3) 「やってみよう 図書館での医療・健康情報サービス」の刊行

平成24年度総会(平成24年5月24日～5月25日)で利用するため同年5月11日に刊行した。

4) 「統計の基礎」緒方裕光著の刊行

足かけ5年を要したが、平成24年11月1日に刊行された。販売は紀伊国屋書店に委託。

5) 「相互利用便覧」Web版の公開

「相互利用便覧2011年版」のデータに修正を加え、平成25年2月4日に協会ホームページの会員限定ページに公開した。今後冊子体は作成せず、Web版を随時修正する。いずれ時機を見て一般公開を検討する。

3. 今後の課題 (実現可能なものは、翌年の計画に挙げてください)

1) 委員の補充が必要

2) 新規の出版企画を考える。

V. 広報

広報委員会、ホームページ担当ワーキンググループ

1. 委員

委員長 北川 正路(慈恵)

委員 総務会兼務

ホームページ担当ワーキンググループ

グループ長 川崎 かおる(岩手)

委員 岩澤 尚子(香川) 25.3.31 退任、小柳 貴俊(九大)、

今野 穂(札幌)、鈴木 美智子(香川) 25.4.1 就任、

森田 ゆかり(藤田)、中越 晴彦(松歯)、

寺升 夕希(滋賀) 24.6.1 就任、藤沢 靖子(杏林)、

森田 奈津子(慈恵)、中西 綾(和歌) 24.5.31 退任

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

平成24年6月から、広報委員会は総務会兼務とし、広報委員会は開催せず、広報に関する事項は、総務会にて審議することとなった。

ホームページ担当ワーキンググループ委員会

第1回 平成24年11月22日(木)

2) 本会案内パンフレットの更新

標記パンフレットには「会員の権利と義務」を掲載する予定であるが、「会員の権利と義務」の内容が理事会にて審議中のため、平成24年度は更新をしなかった。

平成25年度の総会で「会員の権利と義務」の内容について審議される予定であるので、総会にて承認された後、承認された「会員の権利と義務」内容を掲載した標記パンフレットを作成する。

3) 本会ロゴの商標登録

平成25年度の継続課題となった。

「ヘルスサイエンス情報専門員」に関する各種文書で使用する文字も商標登録することとなったので、次年度以降、あわせて登録手続きをする。

4) 本会ホームページの更新

ホームページ担当ワーキンググループにより、随時更新作業が実施された。

VI. 雑誌 雑誌委員会

1. 委員

担当理事 児玉 関 (東邦)

委員長

委員 江幡 歌奈子 (東邦)、鷹野 祐子 (東都医)、富田 麻子 (日医)、
南野 典子 (慶應)、宮本 高行 (阪医)

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 平成24年6月19日

第2回 平成24年8月31日

第3回 平成25年2月7日

2) コンソーシアム提案交渉

JPLA 雑誌問題検討委員会と合同で、出版元・代理店と平成25年契約に向けたコンソーシアム提案の交渉をのべ33回行い、最終的に出版社ベースで34社からコンソーシアム提案を受けた(前年に比べ3社増)。また平成26年契約に向けた交渉をのべ6回行った。

3) コンソーシアム提案の充実

病院向け提案、日本語資料の提案、保健医療領域に特化したコンソーシアム提案の充実を目指し、交渉を行った。NPGから病院向け提案、医学書院から同社が出版する和雑誌に関する提案などを獲得した。

4) コンソーシアム説明会の開催

JPLA 雑誌問題検討委員会と合同で、電子ジャーナル・コンソーシアム説明会を東京と京都で開催した。京都説明会では、近畿地区会に手伝いいただいた。

(1) 東京会場：平成24年9月3日(月) マイナビルーム

参加者：123名(JMLA73名、JPLA50名)、参加企業：24社(展示24社、プレゼン19社)

(2) 京都会場：平成24年9月6日(木) 京都テルサ

参加者：56名(JMLA31名、JPLA25名)、参加企業：24社(展示24社、プレゼン18社)

5) 他コンソーシアムとの連携

大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)とは、AAAS/Scienceの交渉について、連携を維持している。そのほかの提案での連携の可能性についても、意見交換を行った。

6) 分担購入・分担保存の見直し

分担購入・分担保存のあり方について検討を行うことができなかった。

3. その他の報告事項

1) コンソーシアム提案に関するアンケートの実施

平成25年契約のコンソーシアム提案について、正会員A・Bにアンケートを実施した。

2) 提案ウェブサイトの充実

広報委員会、ホームページ・ワーキンググループの協力を得て、JMLAウェブサイト内にコンソーシアム専用のウェブサイトを立ち上げた。鷹野委員にホームページ・ワーキング

グループ委員も兼務してもらい、ホームページの更新手続きを簡素化するとともに、更新の迅速化を図った。またコンソーシアム提案のページを、より見やすくなるようリニューアルした。

3) 委員会体制

平成 24 年 4 月より、鷹野委員（東都医）、富田委員（日医）、宮本委員（阪医）がメンバーとなり、補充と 1 名増員を達成した。委員長については、平成 25 年 4 月より富田委員に引き受けてもらうことになった。

4. 今後の課題（実現可能なものは、翌年の計画に挙げてください）

- 1) コンソーシアム提案交渉の負担軽減。
- 2) 分担購入・分担保存のあり方についての検討。

Ⅶ. 教育・研究 教育・研究委員会

1. 委員

担当理事 平 紀子（北療）
委員長 加藤 砂織（東女）
副委員長 西村 志保（日医）
委員 大瀬 戸貴己（奈良）、諏訪部 直子（杏林）、山田 有希子（東厚年）、
真下 美津子（連中）、

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第 1 回 平成 24 年 6 月 27 日
第 2 回 平成 24 年 9 月 25 日
第 3 回 平成 24 年 12 月 7 日
第 4 回 平成 25 年 3 月 11 日

2) 日本薬学図書館協議会合同委員会の開催 平成 24 年 6 月 27 日

3) 「第 19 回医学図書館員基礎研修会」開催（東海地区）

日時：平成 24 年 8 月 8 日（水）～10 日（金）
会場：愛知学院大学
テーマ：マイテーマを見つけよう、探そう：医学図書館員として
受講者数：58 名
内訳：JMLA38 名（うち 1 名は JPLA にも加盟）、その他 20 名

4) 「第 19 回医学図書館研究会・継続教育コース」開催（関東地区）

日時：平成 24 年 11 月 5 日（月）～7 日（水）
会場：東京医科歯科大学
テーマ：ILB360 ～医学系図書館 360 度指向型サービス～
継続教育コースⅠ：「医師と看護師の研究活動を知る」
継続教育コースⅡ：文献検索演習 中級編 医中誌と PubMed
テーマ：「SGK24（質問を吟味して検索スキルを高めよう！平成 24 年度版）」

参加者数：研究会 65 名（演題発表 12 件）
継続教育コースⅠ 59 名、継続教育コースⅡ 62 名
総数 84 名

内訳：JMLA68 名（うち 3 名は JPLA にも加盟）、JPLA 1 名、その他 15 名

- 5) 「第14回図書館総合展フォーラム」日本薬学図書館協議会と共催
 会場：パシフィコ横浜
 日時：平成24年11月22日（木）13:00～14:30
 テーマ：著作権 図書館員に期待されること、できること
 参加者数：148名
 内訳：JMLA35名（うち3名はJPLAにも加盟）、JPLA19名、その他94名
- 6) 研究助成および海外研修助成の募集
 研究助成、海外研修事業ともに応募なし
- 7) 教育プログラムマニュアル改訂
 (1) 基礎研修会実行委員会用マニュアルを改訂した。
 (2) 研究会継続教育コース実行委員会用マニュアルを改訂した。
- 8) 基礎研修会事後レポート審査
 (1) 24年度より当委員会にて審査を行うことになった。審査に先立ち手順の定式化を行った。
 (2) 審査を行い、実行委員会を通じて対象者にレポート評価証明書を送付した。
- 9) 規程の見直し・改訂
 教育・研究規程、研究助成費及び海外研修助成費給付規程（旧・研究助成規程、旧・海外研修事業規程）を見直し、改訂を行った。
- 10) テキスト「医学図書館員の基礎知識」改訂の検討
 (1) 検討の結果、改訂は行わず講師向けガイドラインを作成することとした。
 (2) 科目の見直しを行い、ガイドラインに反映させた。
- 11) NPO 法人医学中央雑誌刊行会受託研究、平成22-23年「一般市民の医中誌 Web 利用についての調査」報告書作成

3. 今後の課題

- 1) 奨学基金に関わる事業に関しては、海外からの参加者・講師等招聘事業規程（案）の内容を確認するに留まり、運用策定は引き続き検討課題である。また、国際交流委員会等による事業との位置づけを明確にする必要がある。
- 2) テキストは改版の時期を迎えたのを機に講師向けガイドラインへと形態を変えた。改版が容易という利点を活かしつつ、内容の妥当性を保つための方法論の確立が必要である。

Ⅷ. 医療・健康情報

医療・健康情報委員会

1. 委員

担当理事 平 紀子（個人）
 委員長 市川 美智子（愛医）
 委員 牛澤 典子（東邦）

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 平成24年6月27日
 第2回 平成24年12月17日
 第3回 平成25年1月17日

（備考）医療・健康情報ワーキンググループ会議

第1回 平成24年8月27日

第2回 平成24年12月17日

- 2) 『やってみよう図書館での医療・健康情報サービス（増補版）』
 - (1) 増補項目と執筆者を決定
 - (2) 平成25年3月末を目処に執筆を終え、5月以降、編集に入る予定
- 3) 当委員会ホームページ
 - (1) 平成24年第3回理事会で開設が承認された。
 - (2) 「からだところの情報センター」との共同運用を検討した結果、国立ヘルスサイエンス情報センター検討委員会のホームページWGに、当委員会から1名が参加した。
- 4) 医療・健康情報シンポジウム in 静岡2012
 - (1) 日本薬学図書館協議会と共催で開催した。
- 5) 第15回図書館総合展フォーラム（平成25年度）
 - (1) 医療・健康情報サービスワークショップ（仮）の実施を教育・研究委員会に提案。了承済み。
- 6) 医療・健康情報サービス研修会
 - (1) 平成25年度以降の実施について、課題抽出と検討を行った。
- 7) 講師養成研修会
 - (1) 平成25年度以降の実施について、課題抽出と検討を行った。

3. その他の事業報告

- 1) 医療・健康委員会内規を作成
- 2) 委員会名称英語表記を検討し、国際交流委員会に回答
- 3) 医療・健康情報ワーキンググループを組織
- 4) KMLA 秋季学術集会へ報告者として委員1名を派遣

4. 今後の課題

- 1) 人材養成
 - (1) 医療・健康情報サービス研修会での講師や、地域でのネットワーク形成の中心を担える人材を、各地区で戦略的に養成する必要がある（地区会との連携が不可欠）。
- 2) 医療・健康情報サービス研修会及び講師養成研修会の計画と開催
- 3) 委員会ホームページの提供コンテンツ及び運用に関する調整

Ⅷ. 認定資格運営

認定資格運営委員会

1. 委員

担当理事 酒井 由紀子（慶應）
委員長 城山 泰彦（順天）
委員 阿部 潤也（東歯）、小林 晴子（愛医）、永田 治樹（立教）、
山崎 むつみ（静がん）、山下 ユミ（京府）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

- 1) 委員会の開催
 - 第1回 平成24年7月9日
 - 第2回 平成24年9月14日 第18回認定審査
 - 第3回 平成24年11月30日
 - 第4回 平成25年2月18日 第19回認定審査

2) 申請募集と認定審査

(1) 第 18 回申請 (平成 24 年 7 月受付)

審査件数：8

認定件数：8 (基礎 5、上級 3[新規 3])

※ 第 18 回から、改訂された規程・ポイント表が適用されている。

(2) 第 19 回申請 (平成 25 年 1 月受付)

審査件数：26

認定件数：26 (基礎 18、中級 6[新規 6]、上級 2[新規 2])

現存数 (第 19 回まで)：307 名 (基礎 227 名、中級 23 名、上級 57 名)

3) プロモーショングッズの作成と配布

プロモーショングッズの案、製作コストについて検討した。2014 年 1 月募集の第 21 回認定の時期に配布できるよう、準備を進めていく。現在は認定資格のロゴデザイン案について検討を進めている。

4) 「活用の手引き」の普及

これまで認定証送付時に同封していた「活用の手引き」を、PDF 化して JMLA ウェブサイトに掲載する。記載内容に改訂を加えており、2013 年 4 月の第 19 回認定の時期までに公開する予定。

5) 業務分掌の共有

認定資格実行委員会と JMLA 中央事務局との業務分掌の共有について、検討を進めていく。申請者からの問い合わせは、中央事務局が窓口となり、認定資格運営委員会が回答を用意する。定型的な質問は、従来通り事務局で回答してもらう。他の業務についても、順次検討をすすめていく。

6) 専門職能力開発プログラム実現への協力

現時点で具体的に動き出していないが、逐次担当理事から、認定制度と教育プログラムの方針案等について報告を受け、委員で情報を共有している。

7) 教育・研究、認定資格運営委員会との連携推進

(1) 研修プログラムにおける認定資格要件やポイント数の確認など、教育・研究委員会、研修会実行委員会、担当理事との調整は順調に恒例化している。

(2) 第 18 回医学図書館員基礎研究会実行委員会の提案に応じ、講義 7「特定非営利活動法人日本医学図書館協会の活動について」の中で、認定資格に関する講義を行った。山下委員が担当。(2012 年 8 月 10 日)

8) 広報の整備

(1) 認定資格のチラシ製作を外注して、作製の負担を軽減した。

(2) JMLA ウェブサイト掲載の認定者名簿について、認定者からの要望があれば、本人の氏名・所属の表記を変更することとした。

9) 申請と審査の仕組みの整備

(1) 電子申請、ポイント等の自動計算、システム化等の申請の電子化について懇談を行った。

(2) 過去の審査事例に基づいた事例の整理について懇談を行った。

(3) JMLA 主催研修会の部分参加者が得られるポイント数の算出方法について確認を行った。

3. その他の報告事項

1) 関係機関との協力

(1) ローライブラリアン研究会の依頼に応じ、2012 年 7 月定例会において、酒井理事が認定資格に関する発表を行った。(2012 年 7 月 20 日)

(2) 日本図書館協会図書館学教育部会の依頼に応じ、平成 24 年度第 2 回研究集会「図書

館情報学の資格認定制度と検定試験」において、城山委員長がヘルスサイエンス情報専門員について発表を行った。山下委員も参加し、関係者との情報交換を行った(2012年12月8日)。

4. 今後の課題

- 1) 認定資格運営委員会、JMLA 中央事務局との業務分掌の共有は進んでいるが、明文化の必要がある。
- 2) 過去の審査事例に基づいた事例の整理について懇談を行ったが、具体的な整理方法について確認が必要である。また、増え続ける過去の申請書類の紙での保存には限界があることを確認している。
- 3) 申請促進の広報強化は進んでいるが、認定取得者がメリットを感じ、存在を主張するような強固なブランディング戦略が望まれる。準備中のプロモーショングッズの作成・配布、取得者による広報支援のための「活用の手引き」の協会ホームページへの掲載を進める必要がある。
- 4) JMLA 主催研修会の、部分参加者が得られるポイント数の算出では、ポイントを1時間単位で算出するように変更したため、端数の切り捨ての算出が煩雑となっている。
- 5) JMLA ホームページに掲載している規程は HTML のため更新作業の手間がかかりミスも起こりがちのため、PDF での提供が望ましい。
- 6) 申請要件(中級・上級)では、専門学協会活動の活動項目を必須化したのに伴い、ポイント表に関連活動の項目を増やしたが、さらに積極的に協会活動に加わることができるような仕組みや事業展開が必要である。
- 7) ポイント表について、ポイント数や表記内容等を整理して、実態に合うように、また、わかりやすくなるように改訂していく。
- 8) 専門職能力開発プログラム案実現に向けた、体制づくりが必要である。
- 9) 他の図書館関連団体が認定する認定資格や検定試験の関係者との情報交換は有益であった。さらに連携の機会がとれることが望ましい。

X. 専門職能力開発

専門職能力開発委員会

1. 委員

担当理事 酒井 由紀子(慶應)
委員長 諏訪部 直子(杏林)
委員 佐山 暁子(東邦)

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 平成24年7月27日
第2回 平成24年9月3日
第3回 平成24年11月12日
第4回 平成24年12月21日
第5回 平成25年2月14日(有識者会議)
第6回 平成25年2月26日(有識者会議)
第7回 平成25年3月13日

2) 専門職能力開発プログラム案の検討と作成

(1) 専門職能力開発プログラム案に対する意見への対応・回答

平成 23 年度に提示した専門職能力開発プログラム案に対する意見への対応・回答を協会のサイトに公開した。

(2) カリキュラム策定有識者会議開催

平成 25 年度総会で承認を得ることを目標に、プログラム案の検討と改訂を進めている。各地区に出向き、委員会案を説明し会員と議論する機会を設ける予定であったが、時間と費用の面で制約があるため予定を変更し、カリキュラム策定有識者会議を開催した(2月14、26日)。

(3) 専門職能力開発プログラム案に対する意見の収集

ホームページに掲示板を設け、平成 24 年度に改訂した専門職能力開発プログラム案に対する意見を募る準備を行った。

3) コア・カリキュラム開発

医学図書館員基礎研修会にかわるコア・カリキュラムを定めるために、講師候補によるシラバス開発に着手する予定であったが、十分な準備ができなかったため、上記有識者会議で科目案を作成し、シラバス開発は平成 25 年度に持ち越す。

4) 倫理綱領の策定

医学図書館員のプロフェッショナリズムを規定する倫理綱領案を作成した。上記有識者会議でも説明、掲示板上でも意見を募る。

3. 今後の課題

1) 専門職能力開発プログラム

既存の研修制度・認定資格制度と、新しい統合的プログラムとの整合性をとりながら、実施可能なレベルになるよう完成度を高め、移行体制に関する提言も盛り込む。

XI . 受託事業

受託事業委員会

1. 委員

担当理事 河合 富士美(聖ルカ)

委員長 坪内 政義(専務理事・愛医)

委員 総務会兼務

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

委員会として会議を持たず、総務会で全体を統括した。

2) それぞれの事業はワーキンググループや研究班を組織して活動した。

3) 診療ガイドライン作成支援事業

詳細は 3. 事業別報告を参照。

4) 医学中央雑誌刊行会受託事業

(1) 平理事を代表とする研究「一般市民への医中誌 Web 提供についての調査」を平成 21 年度から受託し、継続調査した。平成 23 年度を最終年度とした。

(2) 医中誌 Web チュートリアル作成を受託したが、Version 5 の本リリースが遅れたため、シナリオ作成作業も遅れた。平成 24 年度は仮のシナリオ案を作成し、医学中央雑誌刊行会に収めた。今後、冊子体の「使い方」の原稿が確定した段階で、シナリオを再検討する。詳細は 3. 事業別報告を参照。

4) 受託事業に関する作業費について

これまで担当者の作業費が未払いになっていた受託事業について、開始時期に遡って支

給することとした。関連して、診療ガイドライン作業費とその他の作業費支払基準を次のとおりとした。

(1) 診療ガイドラインのための文献検索作業費

- ①担当者1人（あるいは1グループ）が担当するCQ1件あたり1,000円を支払う。
- ②リーダーには作業費に加えて1ガイドラインあたり5,000円のリーダー料を支払う。

(2) 医中誌刊行会などから受託した調査／研究／報告に関する作業費

担当者1人に、受託料の5%を支払う。

3. 事業別報告

1) 診療ガイドライン作成支援－診療ガイドラインワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 坪内 政義（愛医）

委員長 河合 富士美（聖ルカ）

委員 柿田 憲広（愛歯）、川崎 かおる（岩手）、小嶋 智美（個人）、高橋 奈津子（聖隷）、成田 ナツキ（個人）、谷口 今日子（富山）25.3.31 退任、森正 智子（昭和）、山崎 むつみ（静がん）、山舘 優子（岩手）、山口 直比古（個人）、愛知医科大学医学情報センター（代表：小林 晴子）、大阪市立大学学術情報総合センター医学分館（代表：中瀬 範子）、杏林大学医学図書館（代表：諏訪部 直子）、慶應義塾大学信濃町メディアセンター（代表：舘 田鶴子）24.12.1 就任、信州大学附属図書館医学部図書館（代表：青木 綾乃）、東京慈恵会医科大学学術情報センター（代表：阿部 信一）、東京女子医科大学図書館（代表：三浦 裕子）、東邦大学医学メディアセンター（代表：大谷 裕）、名古屋市立大学総合情報センター川澄分館（代表：久田 睦美）、奈良県立医科大学附属図書館（代表：鈴木 孝明）、日本医科大学図書館（代表：渡辺 由美）、広島大学図書館霞図書館（代表：藤井 武志）【下線＝リーダー】

(2) 事業報告と年間目標の達成状況

①委員会の開催

第1回 平成24年6月14日

②受託状況

10学会・研究班より15ガイドラインを新規に受託した。（詳細は別紙参照）

③研修会の開催

平成24年6月14日～15日に文献検索講習会上級を国立女性教育会館にて開催した。昨年度までの内容に加え、文献の読み方の講義を追加し2日間のコースとした。会員18名が受講した。

④診療ガイドライン委員会への出席者の増員

了解の得られた診療ガイドライン作成委員会についてリーダー+1名の検索担当者を出席させ、研鑽の機会とした。

⑤作業費の改訂

作業費を見直し、これまでの1ガイドラインにつき2万円を1CQあたり1,000円に改訂した。またリーダーを担当した際の作業費を1ガイドラインあたり5,000円とした。

(3) 診療ガイドライン作成支援の今後の課題

①ガイドライン受託条件の見直し

②CQと検索式のデータベース化

③文献検索リストやCQ・KW・代表文献リスト等関係文書の集中管理

2) 医学中央雑誌刊行会受託事業 医中誌 Web チュートリアル

(1) 委員

担当理事 河合 富士美 (聖ルカ)

委員長 坪内 政義 (愛医)

作成担当者 児玉 閱 (東邦)、大谷 裕 (東邦)、谷澤 滋生 (東邦大学習志野メディアセンター)、黛 崇仁 (東邦大学習志野メディアセンター)

(2) 事業報告と年間目標の達成状況

①委員会の開催

平成 24 年 7 月 31 日 第 1 回打ち合わせ

平成 24 年 8 月 29 日 第 2 回打ち合わせ

平成 24 年 9 月 21 日 Voicing 社、医中誌との打ち合わせ

平成 25 年 1 月 31 日 作成担当者打ち合わせ

②事業の方向性の確認

平成 23 年度に医中誌 Web チュートリアル作成が決まる。出版員会で医中誌に関する書籍作成の話があり、それと連携させることを考え、作成を保留した。平成 24 年 7 月 31 日と 8 月 29 日に、出版委員会 (磯野理事、宇野委員長) と執筆者 (諏訪部、平)、受託事業委員会 (河合理事) と作成担当者 (谷澤、児玉、大谷、黛)、医中誌 (松田)、JMLA 事務局 (宇佐見) が集まり、チュートリアル・コンテンツの方向性を協議した。その結果、出版委員会で企画されていた医中誌に関する書籍とチュートリアル・コンテンツの内容を連動させることが確認された。

③コンテンツの確認

作成するコンテンツについて協議した結果、書籍の内容をすべてチュートリアル・コンテンツにすることはできないので、今年度は「第 2 章 検索の流れ」、「第 3 章 検索してみよう」、「第 4 章 目的別の検索」、「管理者機能」について、コンテンツを作成することとなった。第 2 章、第 3 章、第 4 章は書籍の原稿に基づいて、コンテンツを作成する。「管理者機能」については、書籍で扱わないため、チュートリアル独自コンテンツとなる。

④作業範囲

チュートリアル・コンテンツの作成の作業範囲は、シナリオ作成とする。コンテンツの Web 化は、医中誌が業者に委託する。委託先については、Voicing 社の福田氏に一任することとなった。業者選定、Web 化での相談、完成したコンテンツのチェックなどは、作成担当者も協力する。

⑤作業分担とスケジュール

平成 25 年 1 月 31 日に作成担当者の打ち合わせを行い、作業の手順と分担を確認した。初校が終了している第 2 章を 3 月中に医中誌へ提出した。第 3 章、第 4 章は平成 25 年 5 月、管理者機能は平成 25 年 6 月中にシナリオ案を医中誌へ提出する予定となった。

(3) 医中誌 Web チュートリアル作成の今後の課題

①他の章のコンテンツの作成。

②Web 化されたコンテンツの点検。

③作成済みコンテンツ内容の更新。

4. 今後の課題

JMLA の社会的・学術的活動の普及、会員のスキルアップ、収入の安定化を目的としている。それらは効果をあげているが、事業遂行のために会員への負担が増大することのないよう考慮する必要がある。

2012年度受託ガイドライン一覧

ガイドライン名	学会	検索担当者	委員会出席
GL1001 尿路結石診療ガイドライン	日本泌尿器科学会	名市、土田(金医)、リーダー:鈴木(奈良)	2012.08.25浜松(鈴木)
GL1105 CIDP/MIMN診療ガイドライン	日本神経学会	愛医、名市、山崎(静がん)	2012.05.19東京(河合)、2012.06.17(河合)、 2012.07.14-15東京(河合)
GL1106 ギランバレー/フィッシャー症候群診療ガイドライン	日本神経学会	慈恵	2012.07.16東京(阿部)
GL1109 重症筋無力症診療ガイドライン	日本神経学会	山口(個人)、川崎(岩手)、リーダー:山口	2012.05.24東京(山口)
GL1110 ALS診療ガイドライン	日本神経学会	萩原(信州)、谷口(富山)、成田(個人)	2012.04.08東京(河合)、2012.07.08東京(河合・萩原)、2012.09.09東京(河合・萩原)、2012.10.21東京(河合・萩原)、2012.11.11東京(河合・萩原)
GL1116 小児ネフローゼ症候群診療ガイドライン	日本小児腎臓病学会	河合、小嶋	2012.04.20福岡(河合)、2012.05.31東京(河合・小嶋)、2012.09.15小嶋(神戸)、2012.11.10東京(河合)、2013.1.20東京(河合)
GL1201 頭蓋骨早期癒合症診療ガイドライン	日本頭蓋顎顔面外科学会	広島、リーダー:山口	
GL1202 内視鏡外科診療ガイドライン	日本内視鏡外科学会	杏林、日医、山口(個人)	
GL1203 関節リウマチ診療ガイドライン	厚生省免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業我が国における関節リウマチ治療の標準化に関する多層的研究班RA診療ガイドライン作成分科会	東女、谷口(富山)、リーダー:山口	
GL1204 頭頸部再建診療ガイドライン	日本形成外科学会	信州、阪市、リーダー:鈴木	
GL1205 殿部外陰部の再建診療ガイドライン	日本形成外科学会	河合	
GL1206 HUS診療ガイドライン	科研費大西班	河合	
GL1207 外反母趾診療ガイドライン	日本足の外科学会	森正(昭和)	
GL1208 乳癌診療ガイドライン:治療編	日本乳癌学会	慈恵、山館(岩手)、成田(個人)、山口(個人)	2012.10.14東京(河合)、2013.01.05東京(河合・成田)、2013.01.06東京(河合)、2013.03.01東京(河合)、2013.03.02東京(河合・成田)
GL1209 乳癌診療ガイドライン:予防・診断編	日本乳癌学会	日医、小嶋(個人)、河合	2012.12.16東京(河合・小嶋)、2013.03.03東京(河合・小嶋)
GL1210 腎尿管腫診療ガイドライン	日本泌尿器科学会	奈良、高橋(聖隷)、リーダー:鈴木	
GL1211 精巣腫瘍診療ガイドライン	日本泌尿器科学会	山口(個人)、柿田(愛歯)、リーダー:山口	
GL1212 四肢の先天異常診療ガイドライン	日本形成外科学会	東邦	
GL1213 熱性けいれん診療ガイドライン	日本小児神経学会	山口(個人)、柿田(愛歯)、リーダー:山口	2013.03.17東京(河合・山口)
GL1214 急性腹症診療ガイドライン	日本腹部救急医学学会	山口(個人)、小嶋(個人)、柿田(愛歯)、成田(個人)、山館(岩手)、リーダー:山口、小嶋	
GL1215 腎外傷診療ガイドライン	日本泌尿器科学会	山口(個人)	

XII. 国立ヘルスサイエンス情報センター

国立ヘルスサイエンス情報センター検討委員会

1. 委員

担当理事 山田 久夫（個人）
委員長 山田 久夫（個人）
委員 磯野 威（個人）、内生蔵 洋子（聖マ）、
加藤 治（科学技術振興機構）、坪内 政義（愛医、専務理事）
時実 象一（個人）、三沢 一成（医中誌）、村上 健治（滋賀）

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 平成24年4月19日
第2回 平成24年10月4日
第3回 平成25年1月11日

2) ポータルサイト「からだところの情報センター」の運用

平成23年8月の6団体の担当者による会合の後、運用を再活性化しつつある。一方、国立の施設に求められる機能を考察するモデル事業として、国立国会図書館HPの「レファ協」を参考に、医療・健康情報委員会と協力し、新たなワーキンググループメンバーを加え、活動を開始した。（平成25年1月29日ワーキンググループ会議開催）

6団体：・日本医学図書館協会・近畿病院図書室協議会・日本病院ライブラリー協会
・日本農学図書館協議会・日本薬学図書館協議会・日本看護図書館協会

3) 国立の施設の必要性を検討する6団体協議会の開催

協議会を平成25年3月14日に開催し、長く停滞していた活動を再活性化させつつある経緯を説明し、意見を求めるとともに、国の施設の必要性を促す「モデル事業」についても意見交換した。

XIII. 国際交流

国際交流委員会

1. 委員

担当理事 酒井 由紀子（慶應）
委員長 佐藤 晋巨（聖看）
委員 諏訪部 直子（杏林）、野添 篤毅（個人）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 平成24年9月21日
第2回 平成25年1月18日

2) 韓国医学図書館協会（以下、KMLA）との連携

(1) 2012年度KMLA秋季学術大会へJMLA理事及び会員1名を派遣した。

派遣先会合：ビジネスミーティング、韓国医学図書館協会秋季学術大会

開催日時：ビジネスミーティング 2012年10月10日（水）

KMLA秋季学術大会 2012年10月11日（木）～12日（金）

派遣者：磯野威（理事 個人）、牛澤典子（会員 東邦）

内容：KMLAから消費者健康情報について講演できる方を派遣してほしいとの希望が

あったため、医療・健康情報委員会からの推薦を受けた会員を派遣した。

(2) 2013年度第84回JMLA総会へKMLA会員2名の招聘の準備を開始した。

3) 英文組織名称

協会にかかわる名称の英文表記を理事および各委員会と調整のうえ新規作成・修正した。国際交流委員会のページに掲載する(予定)。

4) 英語ホームページ作成

海外の図書館員を対象に、協会の活動を広報するためのホームページの原稿作成を開始した。2013年4月に公開を予定している。

5) 米国医学図書館協会(以下、MLA)との連携

(1) MLAとJMLAの二者協定締結の調整を行った。

2011年の震災で滞っていた同協定の修正作業および締結に向けての作業を行い、2013年3月に締結に至った。

(2) MLA初参加者への助成

2013年5月開催予定のMLA'13/11th. ICML参加予定者で、MLA初参加者を対象とした助成金の支給を企画した。

募集期間:2012年11月26日~2013年1月31日

応募者:0人

(3) MLA参加促進キャンペーンの企画

MLA初参加者の助成募集に対して応募者が0だったことを踏まえ、今後の参加を促進するキャンペーンの企画を開始した。

(4) 2013年のMLA総会にて、先方のInternational Cooperation Sectionと今後の連携強化について懇談を企画した

6) EBMセミナーの企画

2013年9月開催予定の招聘海外講師によるEBMセミナーの企画を開始した。日本薬学図書館協議会と共催の教育研究事業として位置づけられるため、兼任の諏訪部委員が教育研究委員会委員との連携を行うことを両委員会で確認している。

7) 委員の公募

国際交流委員会の委員を公募した。

募集期間:2012年11月26日~2013年1月15日

応募者:0人

3. その他の報告事項

事業内容が多く負担が大きい。委員の増員が必要である。

4. 今後の課題

1) 英文ホームページの公開

2) KMLA連携事業における派遣者の見直し、定型化と覚書の締結

3) MLAとの二者協定に基づく連携事業の開始

4) MLA参加促進キャンペーンの実施

5) EBMセミナーの実施

XIV. 組織・制度

組織・制度委員会

1. 委員

担当理事 北川 正路(慈恵)

委員長 尾崎 聖太郎（麻布）

委員 加藤 恵子（国がん）、新谷 知之（東海）、土佐 智義（個人）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 平成24年7月20日

第2回 平成24年11月14日

第3回 平成25年1月22日

第4回 平成25年3月22日

2) 新定款に基づく細則、規程の改正

東京都から認証された新定款（平成23年12月2日付）に基づき、以下の細則、規程の改正案を作成して、理事会に提出した。

各改正案は、理事会での審議・承認の後、施行となった。

- ・「理事会の運営に関する細則」（平成24年8月29日施行）
- ・「地区会に関する細則」（平成24年8月29日施行）
- ・「名誉顧問及び会友に関する細則」（平成24年8月29日施行）
- ・「総務会規程」（平成24年9月28日施行）
- ・「委員会規程」（平成24年8月29日施行）
- ・「中央事務局規程」（平成24年8月9日施行）
- ・「資産管理規程」（平成24年9月28日施行）
- ・「旅費規程」（平成24年9月28日施行）
- ・「教育・研究規程」（平成24年8月9日施行）
- ・「ヘルスサイエンス情報専門員認定資格規程」（平成24年5月1日施行）
- ・「研究助成費及び海外研修助成費規程」（平成24年8月9日施行）
- ・「奨学基金規程」（平成24年8月9日施行）
- ・「協会賞・奨励賞授与取扱規程」（平成24年5月1日施行）
- ・「協会所有電子資料利用規程」（平成24年9月28日施行）

3) 正会員BからAに変更となった会員の平成26年度以降の年会費の移行

第82回総会（平成23年度）において、大学の機関はすべて正会員Aとなることが承認された。これに伴い、正会員B（年会費4万円）から正会員A（年会費8万円）に変更となる会員が生じるため、標記移行について、平成23年度に理事会に複数の移行案を提出した。

理事会で審議の後、平成24年度総会にて以下の移行が理事会から提案され、承認された。

正会員BからAに移行した会員の年会費の段階的移行

- ・平成26年度6万円
- ・平成27年度6万円
- ・平成28年度6万円
- ・平成29年度以降8万円

当初、「入会及び退会に関する細則」に移行措置を反映させた内容として改正する予定であったが、細則は改正せず、要覧に移行方法を参考注記として記載することとし、理事会の了承を得た。

4) 会員の権利（特典）と義務の明確化

標記の権利（特典）と義務の内容が会員に周知されていないため、入会案内パンフレットやホームページに明確に記載する必要性が挙げられている。

そのため、会員の権利（特典）と義務、会員として貢献できる内容について会員種別ごとに一覧表を作成し、理事会に提出した。

会員の権利（特典）と義務の明確化については、平成 25 年度総会において、理事会から提案される予定である。

5) 本会の活動に即した法人組織の在り方の提案

現在、本会は NPO 法人であるが、活動の現状を考慮した際、どのような法人組織が適しているかを再考する必要性が挙げられている。

法人組織の在り方についての具体的な統一案の作成には至らず、平成 25 年度の課題となった。

6) 議事要録、協会作成文書の形式の統一

標記統一の必要性について企画・調査委員会と意見交換をしたが、具体的な統一案の作成は、平成 25 年度の課題となった。

3. その他の報告事項

1) 「総会運営に関する細則」の改正

標記細則の改正が平成 25 年度総会の審議事項となったため、改正案を作成して、理事会に提出した。

2) 委員会内規抜粋版

要覧に掲載される標記内規抜粋版の記述が委員会ごとで形式が異なるため、記述を統一した抜粋版案を作成して、理事会に提出した。

理事会で審議の後、標記内規抜粋版の改正が承認された。

4. 今後の課題

1) 会員の権利（特典）と義務の明確化

2) 本会の活動に即した法人組織の在り方の提案

3) 議事要録、協会作成文書の形式の統一

4) 総会での審議に関する事項

XV. 部会 病院部会

1. 幹事

奥出 麻里（千メセ） 連絡責任者

泉 峰子（科学院）、加藤 恵子（国がん）、河合 富士美（聖ルカ）、玄馬 寛子（倉敷）、

安田 多香子（愛がん）

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 幹事会の開催

第 1 回 平成 25 年 2 月 8 日

2) 病院部会定例会

第 83 回総会分科会において定例会を開催した。参加者は会員 21 名。

3) 見学会

平成 25 年 2 月 8 日に倉敷中央病院の見学会を開催した。参加者 37 名（会員 23 名、非会員 14 名）。